

# ま え が き

大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、東西 50.8km、南北 24.4km、面積 502.39km<sup>2</sup> と広い市域を有しています。気象は瀬戸内海気候に属し、温暖で、また周辺部には山々が連なり緑豊かで、これらの山々を縫うように県下の二大河川であり本市主要水源でもある大野川と大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでいます。

本市の水道事業は、大正 14 年に水源を大分川伏流水として事業に着手し、昭和 2 年に給水を開始しました。以来拡張事業を重ね、現在は 8 浄水場から給水しています。水源は表流水が 97%、残りは地下水となっています。近年の上水道事業では、人口減少や民間施設の地下水利用などに伴う水需要の減少による収益の低下が予測されるうえ、高度経済成長期に整備した施設の改築更新や災害に強い施設の整備が必要とされるなど、多くの課題に対処する必要が生じています。このような中、本市は「大分市総合計画」や「大分市水道事業基本計画（水道事業ビジョン）」を踏まえ、「大分市上下水道事業経営戦略」や「大分市主要浄水場等再構築基本計画」を策定し、将来にわたり安心・安全で持続可能な水道事業の確立を目指しています。

本市水道事業における水質管理は、上記各計画を踏まえ、水源流域の関係機関との連携を図ると共に、自己検査体制の長所を活かし、水源から給水栓水までの水道システム全体を一元的に管理しながら浄水処理に関する調査・研究や運転指導も積極的に行い、安全で安心して飲める水道水を提供し続ける体制の充実を図っています。

本水道水質管理年報は、令和 2 年度に本市が実施したこれらの水質管理にかかる水質試験の結果を取りまとめたものです。

本書が、関係各位においてご活用いただければ幸いです。